

環境報告書

2022年度



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

 株式会社 **サントリー**

◇ ごあいさつ ◇

私ども、株式会社サンコーは、1963年創業以来、世の中の変化に応じ、高難度部品加工への挑戦を重ね活躍のフィールドを広げて参りました。そして、お客様が求めるものづくりを通して信頼関係を築き、必要性を認められる存在になってきました。これからも、製造業を通して、世の中に貢献出来る企業であり続けたいと考えています。

さて、昨今の環境問題に目を向けると深刻さが増してきております。例えば、地球温暖化により、海面の水位が上昇し海拔の低い土地が水没してしまう恐れや、集中豪雨による河川の決壊などで、水害が多発しています。全世界的に持続可能な地球環境の保全への対応が求められています。このような中、当社では、ISO14001を2004年に全工場で認証取得し、環境負荷を低減させたものづくりを推進しております。本システムに基づく環境活動サイクルを有効に活用することで、環境負荷低減をはじめとする環境活動は、着実に成果が出てきていると考えております。

本報告書は、当社の環境活動への取り組みについて主要な内容をまとめたものであり、ご高覧いただき当社の事業活動にご理解を賜れば幸いです。



代表取締役 竹村 潔

◇ 会社概要 ◇

- 会社名 株式会社サンコー
- 代表者 代表取締役社長 竹村 潔
- 事業内容 自動車関連製品、住宅設備関連製品、事務機関連製品、デジタル家電関連製品に関するプレス製品、メカトロ製品及びプラスチック製品の製造販売
- 事業所 本社／〒399-0782 長野県塩尻市広丘野村959番地
工場／堀金工場、三田工場、福岡耳納工場
- 株式上場 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード番号：6964）
- 従業員数 309名

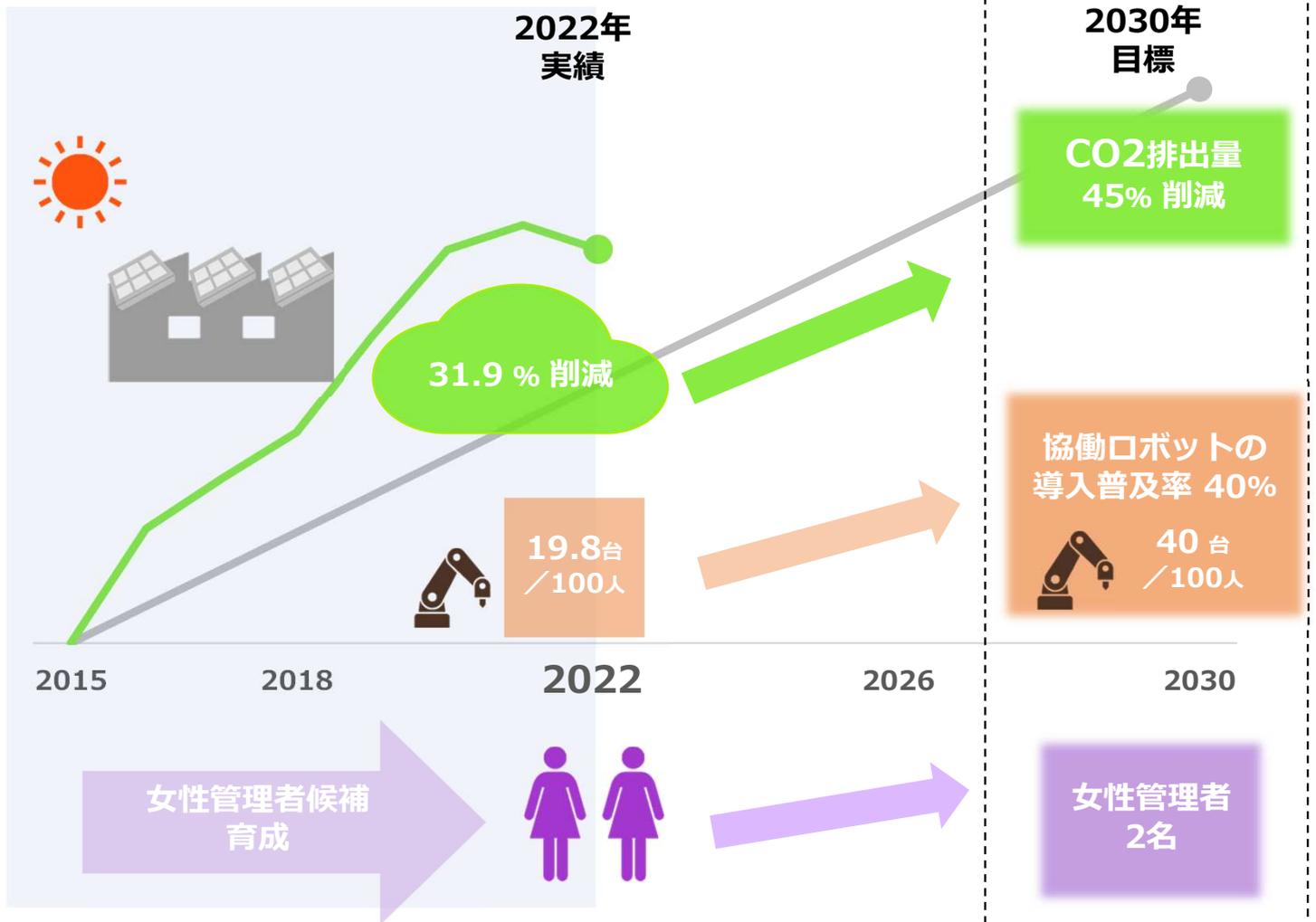


◇ 2030年に向けたSDGs達成に向けた取り組み ◇

サンコーは、持続可能な地球環境の保全に貢献する為、SDGs達成に向けた取組を強化させて参ります。

重点的な取組み

2030年に向けた指標



事業活動で排出されるCO2排出量の削減

2015年を基準年とし45%削減



EV車、HEV車の普及に向けて車載電気部品の低コスト化技術の向上

高圧・制御・電装関連の生産量 2020年度比30%拡大

協働ロボットの導入普及率 2030年までに40% (40台/100人) へ

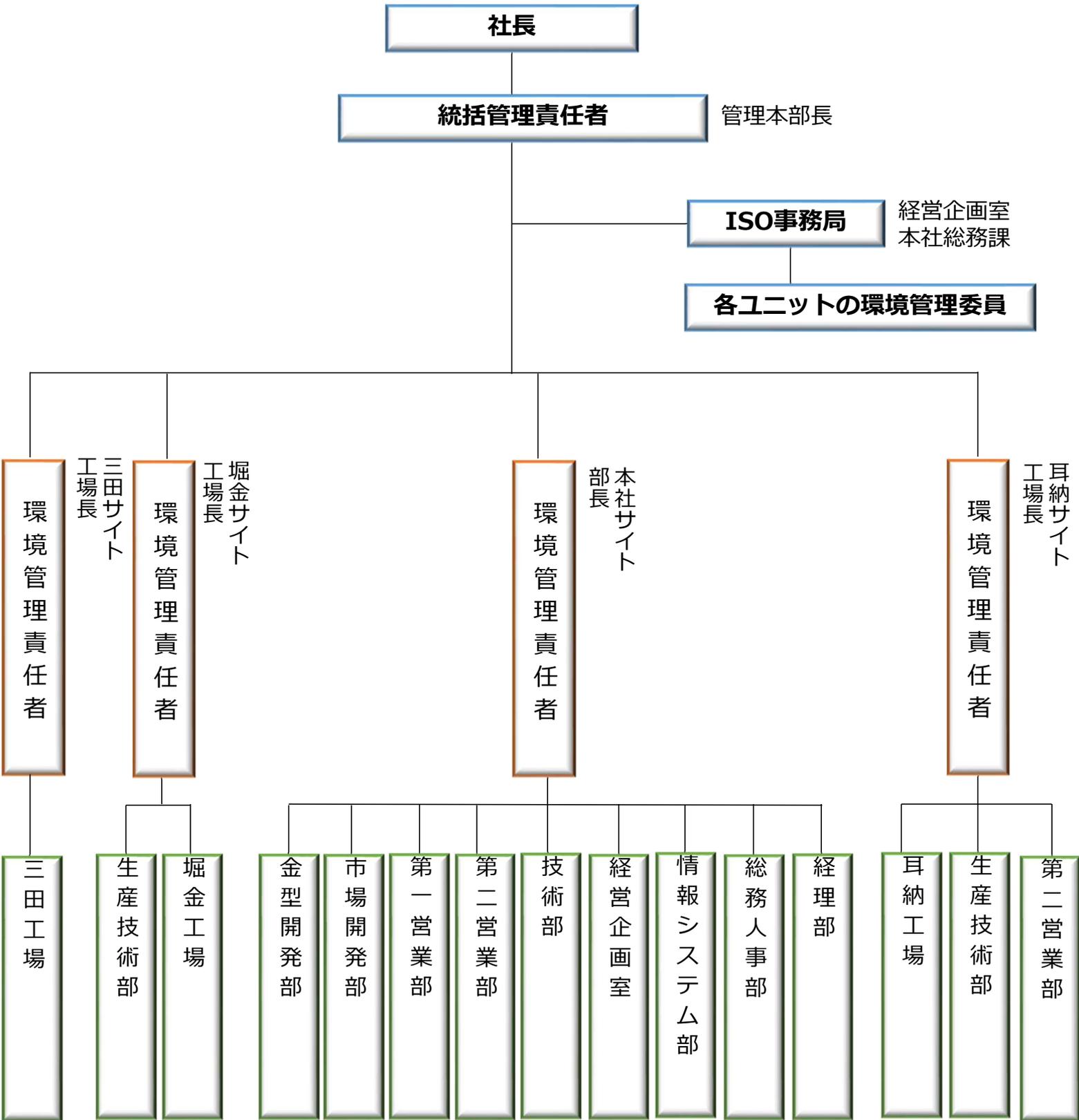


女性社員の登用推進と幅広い職場への配置

管理者2名の育成 製造部門での女性社員活用

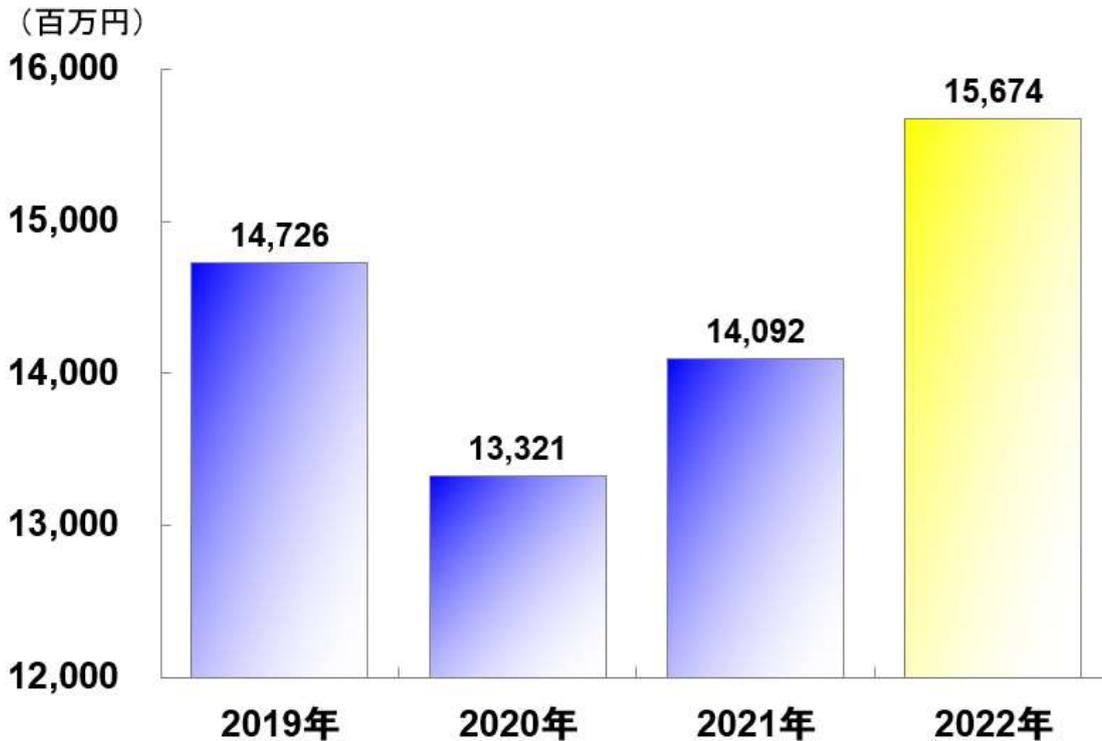


1.環境推進体制



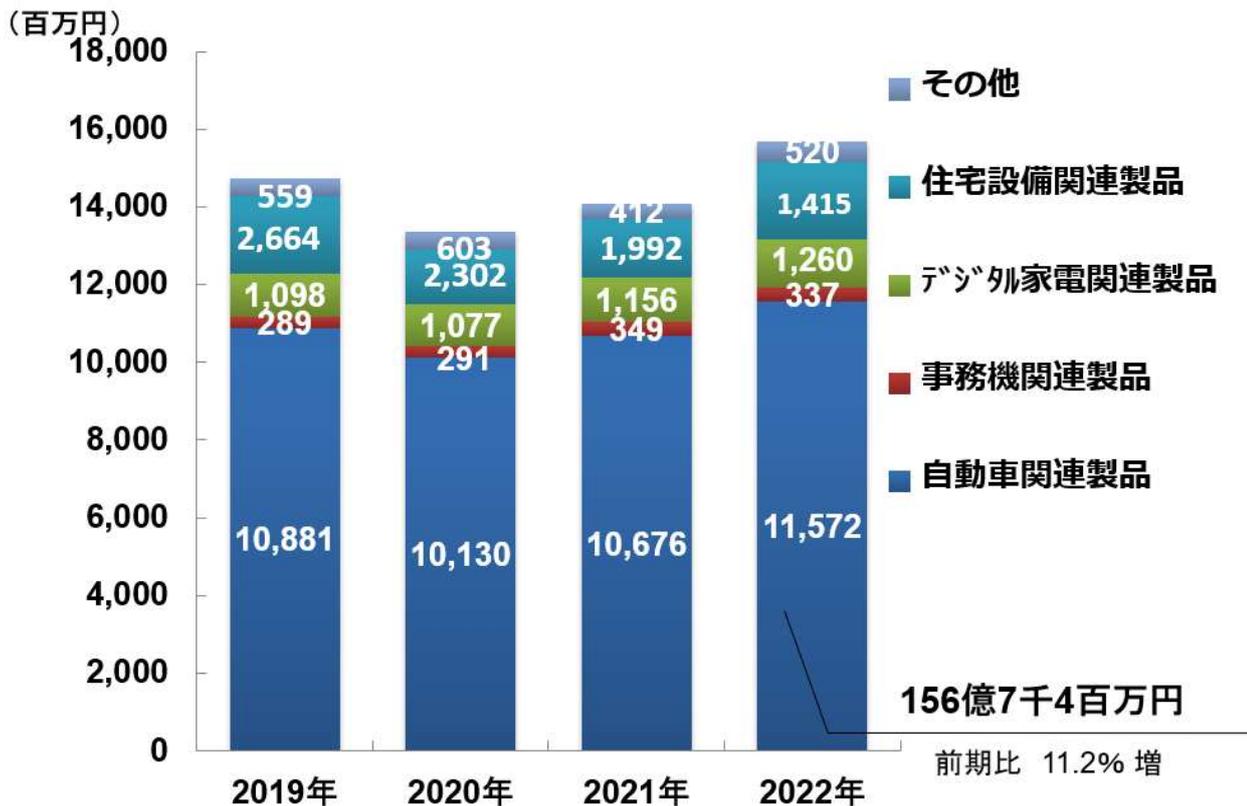
2.売上高推移（連結）

当期の売上高は156億7,200百万円、営業利益は4億9,400万円となりました。



3.事業の種類別売上状況（連結）

主力製品である自動車関連製品の受注増に加え、その他製品も増加傾向にあり生産回復基調が継続しております。



4.主要設備

プレス製品量産設備



プラスチック製品量産設備



金型製造設備



ロボット



5.主要製品

プレス製品



プラスチック製品



メカトロ製品



6.環境マネジメントシステム

〈環境スローガン〉

環境負荷を低減し、地球にやさしいもの造りを目指そう。

〈基本理念〉

私たちは、地球環境保全を企業の使命の一つと自覚し、地域社会と調和を保ちながら、「環境にやさしいものづくり」に対して常に努力し、「持続可能な発展」の国際理念のもと、循環型社会の構築に貢献していきます。

〈環境方針〉

当社は、基本理念に基づき次の方針を定め、地球にやさしい企業を目指します。

1. 次の3項目を中心に、汚染の防止に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
 - ① 廃棄物の削減とリサイクル
 - ② CO2排出削減、省資源、省エネルギーを考慮した生産
 - ③ 顧客要求の環境関連物質の削減
2. 環境関連法規制及び、その他顧客の要求事項を遵守することにより環境保全に努めます。
3. 全社員及び協力会社は、環境対応の重要性を十分認識し、部門毎に目標設定し活動します。
4. 取引先・協力会社・地域社会とのコミュニケーション・連帯を図り、環境マネジメントシステムを効果的に推進するため、教育・啓発に努めます。
5. 環境方針はホームページ、会社案内等に掲載することにより、利害関係者及び一般の人が入手できるよう必要な情報の共有に努めます。



7. I S O 14001 認証取得

当社では、環境国際規格ISO14001を認証取得しております。

初回登録日 2000年3月23日

有効期限 2024年2月12日

対象範囲

1. プレス金型、プラスチック金型の設計・開発及び製造
2. プレス製品・組立製品、プラスチック製品及びメカトロ組立製品の製造



【外部監査】

2022年12月にSGSジャパン株式会社より、ISO14001の維持審査を受審いたしました。対象工場にて審査が実施され、環境に関わる不適合はございませんでした。その結果、「ISO14001の要求事項に適合し、運用され、継続的に改善されている」との評価をいただきました。

【内部監査】

監査の公正・客観性を確保するため、統合内部監査員として資格認定された監査員で監査チームを編成し、内部監査とフォローアップ監査を実施しております。監査結果を経営陣に報告するとともに、被監査部署は指摘事項の是正とシステムの見直しを行っております。

2022年度も全部署で統合内部監査を行い、システム運用に関する重大な指摘事項のないことを確認しております。軽微な指摘事項については各サイト共に速やかな是正処置を行いました。

◆環境関連物質の不使用と削減◆

環境関連物質の使用禁止または削減の管理に関し、電機業界中心のRoHS指令（使用禁止10物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム・ポリ臭化ジフェニルエーテル・ポリ臭化ビフェニル・フタル酸エステル類4物質）及び自動車業界中心のELV指令（使用禁止4物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）に則り、お客様の要請に対応すべく、すべての部品を対象に、新規納入時、または変更納入時に必要なデータを提出しております。それらの物質削減の為の代替案をお客様にご提案すると共に、積極的に不使用に取り組んでおります。また、「REACH」はEUで市場に流通している全ての工業化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規制であり、調査依頼に対して適切に対応しています。



◇ 目標達成度評価

CO2 排出量	目 標	サイト	59期 (2021年度)			60期 (2022年度)			前期比	対前期比 目標評価	2015年比	対2015年比 目標評価	
			内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)					
2022年目標： 2015年比21%削減 (原単位採用) (前期比3%減以上) <マイナスが良い>		本 社	730	747.14	1.023	674	748.50	1.111	8.57%	×	-18.49%	△	
		堀金工場	1,928	1,901.10	0.986	1,623	1,698.79	1.047	6.15%	×	-27.53%	◎	
		三田工場	907	1,617.22	1.784	961	1,821.12	1.894	6.19%	×	-33.21%	◎	
		耳納工場	513	1,140.93	2.226	473	827.53	1.749	-21.42%	◎	-58.73%	◎	
		合 計	4,077	5,406.40	1.326	3,731	5,095.94	1.366	3.00%	×	-31.95%	◎	
廃棄物 排出量	目 標	サイト	59期 (2021年度)			60期 (2022年度)			前期比	対前期比 目標評価	2018年比	対2018年比 目標評価	
			内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)					
	2022年目標： 2018年比4%増以内 (原単位採用) (前期比1%増以内) <マイナスが良い> ※マニフェストを 発行するもの		本 社	730	31.82	0.0436	674	15.08	0.0224	-48.64%	◎	10.86%	×
			堀金工場	1,928	104.13	0.0540	1,623	85.33	0.0526	-2.65%	◎	34.19%	×
			三田工場	907	218.59	0.2411	961	196.32	0.2042	-15.31%	◎	29.41%	×
		耳納工場	513	25.00	0.0488	473	23.87	0.0505	3.44%	×	28.18%	×	
	合 計	4,077	379.54	0.0931	3,731	320.59	0.0859	-7.70%	◎	43.98%	×		

◇ 基準年 (2015年) からの推移(CO2)



◇ 基準年 (2018年) からの推移(廃棄物)



～結果と次年度の取組み～

CO2排出は、使用した電気、燃料の使用量からCO2排出量を算出し、2015年度を基準年とした内製生産高原単位では2022年度に耳納工場を導入した太陽光発電の効果もあり31.9%削減となっております。これは2022年度目標の21%削減に対し10.9%先行して進んでいる状況で、本年度にも堀金工場と三田工場で太陽光発電の導入を進めており、省エネ設備への更新などの施策も併せてCO2排出量の削減を進めていきます。

産業廃棄物の排出は、2018年度を基準年とした内製生産高原単位で排出量を前年比1%増以内に抑えるよう削減活動を行っておりますが、2019年度より中国の廃棄プラスチック類輸入全面禁止の影響を受け、目標に対し排出量が増加している状況です。現状リサイクル率が約60%～90%、リユース率がプラスチック製品を生産している工場で数%程度と認識しておりますが、社外でのリサイクル率など含め正確な数字がつかめていないため、今後正確な数字の把握を行い開示していくとともに、リサイクル率・リユース率向上のための分別回収強化、リユース材使用製品の増加などにより廃棄物の排出削減を進めていきます。

◇ 2023年度の各工場の重点実施内容

本社



2022年度目標 内製生産高原単位採用	2022年度実績				対基準年 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	基準年比	
CO2排出量 2015年比21%以上削減	674	748.50	1.111	-18.49%	△
廃棄物排出量 2015年比4%増以内	674	15.08	0.0224	10.86%	×



2023年度目標 内製生産高原単位採用
前期比3%減
前期比1%増以内

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

前年度の活動でCO2排出削減については、工場、事務所のLED化が進んだことと、エアコン、プレス機、マシニングセンター、平面研削盤を省電力設備への切り換えたことによる効果がでたものの、目標に対して届かなかったため、本年度は残りのLED化を完了させることと省力化設備への切り換えを進めていきます。廃棄物削減については、金型部品の再利用、スクラップ排出低減などの活動に取り組んできましたが、道半ばであり、2022年度目標は未達となりました。この反省により、本年度は、この活動をさらに拡大したリサイクル活動を強化していきます。

◀本年度の重点実施内容▶

- ・営業棟のLED化を進め、本社のLED化を完了させます。
- ・老朽化した生産設備やエアコンの更新を計画し、年間約6,100kwhの使用電力量の削減が見込まれCO2排出量約3tの削減を進めます。
- ・金型部品のリサイクルバネの使用目標を前期比40%向上させます。
- ・リサイクル率向上のため、混合廃棄物の分別強化を進めます。

堀金工場



2022年度目標 内製生産高原単位採用	2022年度実績				対2022年 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	基準年比	
CO2排出量 2015年比21%以上削減	1,623	1,698.79	1.047	-27.53%	◎
廃棄物排出量 2015年比4%増以内	1,623	85.33	0.0526	34.19%	×



2023年度目標 内製生産高原単位採用
前期比3%減
前期比1%増以内

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

前年度の活動でCO2排出削減については、目標をクリアしておりますが、工場のLED化を完了できたことと、老朽化したエアコンの更新、大型石油ストーブのタイマー制御による灯油使用量削減等を進めたことによるものです。本年度も老朽化設備の更新と太陽光発電の導入により、更なる排出削減を進めていきます。廃棄物削減については、工程内不良の削減により前年度比約24%の廃棄物削減となりましたが、2022年目標に対しては活動が足りていないため、本年度は不良削減活動に力を入れるとともに廃棄品の分別、リサイクルも推進し、排出量の削減を進めます。

◀本年度の重点実施内容▶

- ・太陽光発電の導入により、年間約630,000kwhの発電で、CO2排出量約244tの削減を見込んでいます。
- ・老朽化したチラー、エアコンの更新を予定しており、年間約22,000kwhの削減となりCO2排出量8.5tの削減を見込んでいます。
- ・複合品の金属部品分別、リサイクルを強化し、混合廃棄物を前期排出量7.4 tから7.0tを目標に削減 活動していきます。

◇ 2023年度の各工場の重点実施内容

三田工場



2022年度目標 内製生産高単位採用	2022年度実績				対2022年 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	基準年比	
CO2排出量 2015年比21%以上削減	961	1,821.12	1.894	-33.21%	◎
廃棄物排出量 2015年比4%増以内	961	196.32	0.2042	29.41%	×

2023年度目標 内製生産高単位採用
前期比3%減
前期比1%増以内

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

前年度の活動でCO2排出削減については、三田工場の照明のLED化を完了させたことと老朽化したエアコンの更新を行ったことによる効果はあり、2022年目標に対しては達成となりましたが、生産設備の更新は十分に進められなかった点が反省点です。廃棄物削減については、不良廃棄削減活動の推進により、前年排出量より抑えられたものの2022年目標は未達となりました。受注量が増加傾向ではありますが、本年度はランナー等のリサイクル・リユース率を上げ継続的に目標をクリアできるよう進めていきます。

◀本年度の重点実施内容▶

- ・太陽光発電の導入により、年間約380,000kwhの発電で、CO2排出量約147tの削減を見込んでいます。
- ・太陽光の他に、老朽化したコンプレッサー、熱風乾燥機の更新、梓川倉庫のLED化により年間約30,000kwhの省電力化を進めます。
- ・ランナーの分別リサイクルに力を入れ、リユース製品数を増やし、廃棄物を前期約5tから3.5tへ削減します。

耳納工場



2022年度目標 内製生産高単位採用	2022年度実績				対2022年 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	基準年比	
CO2排出量 2015年比21%以上削減	473	827.53	1.749	-58.73%	◎
廃棄物排出量 2015年比4%増以内	473	23.87	0.0505	28.18%	×

2023年度目標 内製生産高単位採用
前期比3%減
前期比1%増以内

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- ・前年度の活動でCO2排出削減については、エアコンや生産設備の省電力設備への更新と太陽光発電の導入により年間約300tの排出削減となり目標クリアとなりました。廃棄物削減については、不良廃棄削減、廃棄治具部品の再利用による廃棄物削減活動を進めましたが、今期の目標に対しては未達となりました。本年度は廃棄への影響が大きい多ロット品の不良廃棄の低減活動を重点実施するとともに、新規製品に対するリユース、リサイクルの活動にも力を入れていきます。

◀本年度の重点実施内容▶

- ・2022年度中に稼働開始した太陽光発電が年間を通じ稼働となり、年間約380,000kwhの発電で、CO2排出量約146tの削減を見込んでいます。
- ・夜勤による生産を削減し、夜間の電力使用量を抑え、CO2排出量を削減させます。
- ・複数リサイクル業者の協力を得て、これまで廃棄処分していた梱包資材などの廃プラや複合品の廃棄物を分別回収することにより、リサイクル率を向上させ、CO2の年間排出量を11tから9.5t以下へ削減させます。

9.環境計画内容及びエネルギー使用合理化

省エネ法に基づき、エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を選任し定期報告書を提出しております。
中長期計画書に基づいた計画は以下の通りです。

内容	該当する工場	実施時期
1.工場設備の省エネ対応 ◇ コンプレッサーのエア漏れ対応による効率化促進	全社対象	2013年～2023年
2.蛍光灯のLED化 ・ 2022年 堀金工場 済 ・ 2021年 三田工場 済 ・ 2021年 耳納工場 済 ・ 2023年 本社 完了予定	全社対象	2018年～2026年
3.空調設備交換による削減 ◇ 空調設備の約3割をインバータタイプに交換 ・ 2022年 堀金工場 済 ・ 2022年 三田工場 済 ・ 2022年 本社 済 ・ 2022年 耳納工場 済	 全社対象	2022年～2023年
4.全社的な削減対応 ◇ エアコンフィルター及び室外機の定期的清掃の実施 ◇ 夏季・冬季の温度設定の徹底（測定室・ワイヤーカット室は除く）	全社対象	2013年～継続中
5.太陽光発電システムの導入 ・ 2022年 耳納工場 済 ・ 2023年 堀金工場 導入予定 ・ 2023年 三田工場 導入予定	全社対象	2022年～2025年
水銀灯の省エネ照明への切替	 全社対象	2019年完了

10.環境保全活動

太陽光発電

再生可能エネルギーの利用に力をいれて活動しています。



耳納工場
2022年より稼働中



三田工場
2023年より
稼働開始



堀金工場
2023年より
稼働開始

11.地域社会貢献活動、安心安全な工場への取り組み

地域の清掃活動・緑地の増加に力をいれて活動しています。
従業員一丸となって、取り組みます！

会社周辺の清掃活動・ 緑地の維持管理



防災訓練の実施

万一の自然災害に備えて各サイト毎、防災訓練を年1回実施し、合わせて灯油・オイル等の漏洩に備え、緊急事態対応の訓練も実施しています。



附則：環境測定の結果

◇ 騒音規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	6時～8時	-	1回/年 2023年3月29日 実施	53	適正	第3種区域：住居の用に合わせて商業・工業等の用に供されている区域
	8時～18時	65				
	18時～21時	-				
	21時～6時	-				
掘金工場	8時～18時	70	2022年10月3日 実施	58	適正	その他の区域：工業地域
	6時～8時	-				
耳納工場	8時～19時	65	1回/年 2022年1月13日 実施	55	適正	久留米市との「環境共生都市づくり協定」より
	19時～23時	65				
	23時～6時	55				
三田工場	対象外					その他の区域：工業専用区域

◇ 振動規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	7時～19時	70	1回/4年 2022年4月6日実施 (次回は2026年度に 実施予定)	36	適正	第2種区域：住居・商業・工業等の用に供されている区域で主として工業等の用に供される区域
	19時～7時	65				
掘金工場	7時～19時	70	1回/4年 2019年9月18日実施 (次回は2023年度に 実施予定)	63	適正	久留米市との「環境共生都市づくり協定」より
	19時～7時	70				
耳納工場	8時～19時	65	1回/4年 2021年1月14日実施 (次回は2025年度に 実施予定)	43	適正	久留米市との「環境共生都市づくり協定」より
	19時～8時	60				
三田工場	対象外					その他の区域：工業専用区域

◇ 浄化槽法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
耳納工場	指定検査機関の検査	1回/年 2023年1月16日実施	適正
本社工場	対象外 (浄化槽なし)		
三田工場			
掘金工場			

◇ 消防法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
掘金工場	地下タンク貯蔵所点検	1回/年 2022年9月30日実施	適正
本社工場	対象外 (タンク無し)		
三田工場			
耳納工場			

◇ PRTR法 (化学物質排出移動量の届出)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	経済産業省製造産業局 化学物質管理課
掘金工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	
三田工場	対象外	
耳納工場		

◇ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物管理票交付状況の報告)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	松本地方事務所 環境課
掘金工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	
三田工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	
耳納工場	1回/年 (6/30迄) 2023年6月受理	久留米市役所 環境部

◇ 下水道法（下水） （単位：mg/ℓ）

◇ 水質汚濁防止法（雨水） （単位：mg/ℓ）

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
本社工場	ジクロロメタン含有量 0.2	1回/年 2022年7月1日採取	0.002
	アンモニア性窒素 -		82
	亜硝酸性窒素 -		0.17
	硝酸性窒素 -		0.33
	アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380		33
	水素イオン濃度 5~9		8.6
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 600		690
	浮遊物質 (SS) 600		80
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5		2.2
	ジクロロメタン含有量 0.2		1回/年 2022年7月1日採取
アンモニア性窒素 -	27		
亜硝酸性窒素 -	0.06		
硝酸性窒素 -	1.1		
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380	12		
水素イオン濃度 5~9	8.4		
生物化学的酸素要求量 (BOD) 600	300		
浮遊物質 (SS) 600	29		
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5	1.3		
三田工場	アンモニア性窒素 -	1回/年 2022年7月1日採取	
	亜硝酸性窒素 -		0.06
	硝酸性窒素 -		2.6
	アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380		18
	水素イオン濃度 5~9		8.1
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 600		390
	浮遊物質 (SS) 600		27
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5		1.3
耳納工場	対象外		

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
本社工場	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 5	1回/年 2023年2月24日 採取	1.5
	ジクロロメタン含有量 0.2		0.002
堀金工場	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 5	1回/年 2023年2月24日 採取	1.0
	ジクロロメタン含有量 0.2		0.021
耳納工場	対象外		
三田工場	対象外		

◇ その他、環境法規制

法規制名	適用対象
労働安全衛生法	MSDSの掲示など名称等表示物質、有機溶剤、特定化学物質、ボイラー、フォークリフト
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（改正省エネ法）	事業活動におけるエネルギー（電気、燃料等）使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換
環境基本法、環境情報提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律	事業活動全般、環境報告書の発行
地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）	温室効果ガスの排出量削減
特定工場における公害防止組織の設備に関する法律	管理者選任
フロンガス排出抑制法	パッケージエアコン冷却機



2023年11月発行

当社は2008年から「環境報告書」を作成しております。
環境スローガン『環境負荷を低減し地球にやさしいもの造りを目指そう』を
合言葉に、ISO14001の環境活動の活動データに基づき作成しております。

- ・対象範囲
本社サイト、堀金工場サイト、三田工場サイト、福岡耳納工場サイト
- ・対象期間
2022年4月1日～2023年3月31日
- ・参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン（2018年度版）」

発行部署/お問い合わせ先

総務人事部 総務課

〒399-0782

長野県塩尻市広丘野村959番地

TEL : 0263-52-2918 FAX : 0263-51-1667

URL : <https://www.sko.co.jp>



株式会社 **サンコー**